

第27回ベストスイマー2026 表彰式開催のご報告

～ 輝く5名の女性たちが受賞されました ～



泳力認定委員会主管の「第27回ベストスイマー表彰式2026」が、6月23日（火）、東京ドームホテルにて開催されました。

受賞されたのはいずれも各支部から推薦のあった方で、遠藤梨歌さん（北海道・札幌YUCHOスイマークラブ）、北澤恵美子さん（信越・AFAS伊南スイミングクラブ）、島岡敏美さん（近畿・アドヴァンスむそた）、田中千鶴代さん（四国・伊藤スイミングスクール）、小川孝子さん（九州・福岡スイミングクラブ）の5名が受賞されました。※ご欠席のため、島岡さんの代理で（株）アドヴァンスの榎本潤一社長が、田中さんの代理で（株）伊藤スイミングスクールの伊藤智也社長が、それぞれ登壇されました。

● 受賞者のご紹介 ●

遠藤さんは、マスターズ水泳女子 40～44 歳区分 50 メートル背泳ぎで 30 秒 08 の短水路日本記録保持者。しかし、専門種目はバタフライだと言います。「背泳ぎは正直、まだ泳ぎ方が分からない。泳ぎ方を習得できれば、まだ記録は伸びると思う。」日本記録保持者でありながら、なお伸びしろがあるという言葉に驚かされました。遠征の楽しみは「食」。盛岡での大会後には、わんこそばを 100 杯食べたというエピソードも。今後の目標は、自身の記録更新と北海道のマスターズ水泳界を盛り上げること。北海道のみならず水泳界をけん引し続けていていただきたいと思います。



遠藤 梨歌（えんどう・りか）さん



北澤 恵美子(きたざわ・えみこ)さん

2009 年、膝を痛めたことをきっかけに、全く泳げないところから水泳を始めた北澤さん。クロールを習得しはじめた頃からゴールドマスタースイマーをはじめ協会の各事業にも積極的に参加。併せて泳いだ距離の記録も付け始めました。その成果は着実に積み重なり、2025 年 2 月には累計 1 万キロを達成。現在も毎日マスタース教室に参加し、自主練習と合わせて 2500 メートルを泳ぐことを日課とされています。表彰式インタビューには、北澤さんを 17 年間指導してきた林太志コーチも飛び入り参加。クラブ独自の泳距離表彰制度で「水泳の神」に認定されたことが紹介されると、会場は大いに沸きました。

クラブ在籍 34 年。71 歳となった現在も週 4 回のプールレッスンに参加し、マシンジムでのトレーニングにも励むなど、スイミングが生活の一部となっている島岡さん。JSCA 全国マスターススイミングフェスティバルへの出場は、直近の第 48 回大会で通算 17 回を数えます。同大会の 200 メートル背泳ぎでは惜しくも 4 位となりましたが、50 メートル毎のラップタイムでは第 3 ラップから最終ラップにかけてペースを上げるなど、現役選手顔負けの見事なレース展開を見せました！今後も大会等での活躍を期待しています。



島岡 敏美(しまおか・としみ)さん ※



田中 千鶴代(たなか・ちずよ)さん ※

実母の介護を終えた 2008 年、71 歳で水中ウォーキングを始めた田中さん。現在のクラブの友人から泳法レッスンに誘われたことをきっかけに徐々に泳げるようになり、やがて 4 泳法を習得されました。水泳歴 18 年、競技歴 15 年。現在も週 4～5 回の練習を継続し、無理のない運動と食事管理を心掛けながら水泳を生涯スポーツとして実践しています。「今ではスイミングで仲間と過ごす楽しいひと時が何よりも楽しみで、生活の大きな励みです」と語り、全国のスイマー同志へは「無理せずゆっくりと続けることがいちばん大事」とのメッセージもいただきました。

1981 年に初心者コースから水泳を始めた小川さん。JSCA マスタース水泳通信記録会にも長年にわたり 1500 メートル自由形で出場を続けています。これまでに女子 1500 メートル自由形 70～74 歳区分で 26 分 26 秒 90、75～79 歳区分で 27 分 17 秒 10 の大会記録を樹立。2026 年の第 31 回大会終了時点においても、その記録は破られていません。小川さんは、「泳ぐことがストレス発散になっています。プールでは母親でも嫁でもなく、自分自身でいられることがうれしいです。歳を重ねても常に向上心を持って生きていきたいと思います」と語られていました。これからも朝練頑張ってくださいね！



小川 孝子(おがわ・たかこ)さん